

科目名	フィジカルアセスメント				分野・必選別・ 単位数	共通科目	選択	2単位
担当教員	◎教授 林さとみ					科目ナンバー	T2A109	
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	通年	授業方法	講義	
授業の概要	複雑な健康問題をもった対象の身体状況を診査し、より適切な看護判断、実践に活用するために必要な知識、思考、技術を修得する。正常・異常の判断能力を育成することにより、身体所見や臨床検査データ等を活用し、より正確な臨床判断を行うために必要な知識・思考と技術についての能力を養う。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義、目的について説明できる。 2. フィジカルイグザム(身体審査)を適切に実施できる。 3. フィジカルアセスメントの知識と技術を、複雑な健康問題をもった対象に必要な看護判断に活用できる。 							
授業計画	回数	担当者			行動目標			
	1	林	さとみ	教授	科目概説 高度実践看護に必要なフィジカルアセスメントの概要について説明できる。			
	2	林	さとみ	教授	高度実践看護に必要なフィジカルアセスメントの概要について説明できる。			
	3	林	さとみ	教授	フィジカルアセスメントの基本的技術と面接法が実践できる。			
	4	林	さとみ	教授	精神機能の診査とアセスメントについて説明できる。			
	5	林	さとみ	教授	脳神経系、感覚器系の診査とアセスメントについて説明できる。			
	6	林	さとみ	教授	脳神経系、感覚器系の診査とアセスメントについて説明できる。			
	7	林	さとみ	教授	筋・骨格系の診査とアセスメントについて説明できる。			
	8	林	さとみ	教授	筋・骨格系の診査とアセスメントについて説明できる。			
	9	林	さとみ	教授	呼吸器系、循環器系の診査とアセスメントについて説明できる。			
	10	林	さとみ	教授	呼吸器系、循環器系の診査とアセスメントについて説明できる。			
	11	林	さとみ	教授	消化器系、皮膚の診査とアセスメントについて説明できる。			
	12	林	さとみ	教授	消化器系、皮膚の診査とアセスメントについて説明できる。			
	13	林	さとみ	教授	泌尿器系、生殖器系の診査とアセスメントについて説明できる。			
	14	林	さとみ	教授	泌尿器系、生殖器系の診査とアセスメントについて説明できる。			
	15	林	さとみ	教授	対象の特徴が診査方法と結果へもたらす影響について説明できる。			
	16	林	さとみ	教授	全身の身体診査の実際を遂行できる。			
	17	林	さとみ	教授	全身の身体診査の実際を遂行できる。			
	18	林	さとみ	教授	全身の身体診査の実際を遂行できる。			
	19	林	さとみ	教授	全身の身体診査の実際を遂行できる。			
	20	林	さとみ	教授	ケーススタディ:フィジカルアセスメントの知識と技術を、複雑な健康問題をもった対象に必要な看護判断に活用できる。			
21	林	さとみ	教授	ケーススタディ:フィジカルアセスメントの知識と技術を、複雑な健康問題をもった対象に必要な看護判断に活用できる。				

	回数	担当者	行動目標
	22	林 さとみ 教授	ケーススタディ:フィジカルアセスメントの知識と技術を、複雑な健康問題をもった対象に必要な看護判断に活用できる。
	23	林 さとみ 教授	ケーススタディ・まとめ:フィジカルアセスメントの知識と技術を、複雑な健康問題をもった対象に必要な看護判断に活用できる。
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 回次の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。	
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。	
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。	
教科書	必要に応じて適宜提示する。		
参考書	<p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リンS.ビックリー他著:ペイツ診察法(第2版),メディカル・サイエンス・インターナショナル,2015. ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学(2) ヘルスアセスメント 志自岐康子、城生弘美、松尾ミヨ子著 2018. 第5版、メディカ出版 ・Carolyn Jarvis, C:Physical Examination & Health Assessment (8th Ed.), Saunders, 2019. ・DVD教材:フィジカルアセスメント第2版,フィジカルアセスメントの実際,監修,芳賀佐和子,佐藤富美子,医学映像教育センター ・他は、必要に応じて適宜提示する。 		
成績評価の方法および基準	技術試験40%、ケーススタディレポート50%、プレゼンテーション10%、として評価を行う。		
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。		